



氏名 山田 翔子  
 学校名 札幌市立元町中学校  
 学年 第3学年(37人)  
 実施教科(領域) 国語科・  
 総合的な学習の時間

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名) :	合意形成に向けて話し合おうーモンゴルの社会課題解決のために会議を開く
2. 単元の目標 :	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会の一員として開発途上国(モンゴル)への理解を多角的多面的に深める。</li> <li>・多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。</li> </ul>

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	(2) 情報と情報との関係について理解を深めることができる。
	②思考力、判断力、表現力	(1) 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら、話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりできる。 (2) 互いの考えを生かしながら議論や討論ができる。 (3) モンゴルの現地の人たちの事例を読み取り、モンゴルが抱える社会課題について考え、課題を明らかにできる。
	③主体的に学習に取り組む態度	モンゴルの社会課題の解決に向け、多様な立場を理解したうえで、主体的に考えることができる。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>研修を通して、モンゴル・ウランバートル市では急激な都市化による弊害(大気汚染・交通渋滞・インフラ整備等)をたくさん目にする事ができた。それと同時に、日本の先人たちが都市を形成していくうえで、全国規模で物事を捉え、実行に移してきたからこそ、現在の日本の「当たり前」が成り立っていることを知った。特に生活・社会インフラ(上下水道・電気・ガス・通信・交通機関・医療機関・教育施設・行政サービス等)に関しては全国どこへ行っても共通して安心・安全を確保しており、その点は日本の誇りだと考える。</p> <p>今回はモンゴル・ウランバートル市をケーススタディとして、社会課題に向き合う話し合い活動を行う。開発途上国のモンゴルと先進国の日本の状況は同じではない。しかし、日本で上記のような「当たり前」の生活をしてきた中学生にとって、モンゴルが直面する社会課題に対する解決策は、メリット・デメリットを考慮したうえで、既存の物事を組み合わせることによって生み出せると仮定した。また、今後、未知の課題解決に取り組むことになった際、今回の話し合いの経験をその手立てにしてほしいと考えた。</p>	

山田翔子  
教諭

**【単元の意義】**

本授業は国語科と総合的な学習の時間との教科横断的な取り組みである。

1 時間目に「建設的な話し合いの作法」を使った話し合いの練習を行う(国語)。2 時間目は「フォトランゲージ」等、用いたモンゴルについての学習(総合)。3 時間目に、モンゴルの現地の人 6 名が置かれている状況を考慮しながら、その人物になりきり、政府への要望を考える。一人ひとりが当事者意識をもって話し合い、政府への要望を一つにまとめていく。要望を 1 つにまとめることが大きな目的ではなく、異国の人々である当事者の立場や状況を感じ取ること、その上で要望を一つにまとめていくことの困難さを知ることが目的である(国語)。4 時間目は、別のグループに編成し直したうえで政府の立場になり、6 名の要望に対して、一つ実現するものを選択する学習である。

**【児童／生徒観】**

本学級は明るく活発な雰囲気強い一方で、冷静に物事を考えられる生徒も多い。日々の学習に対しては、興味のある分野、得意だと感じたものに一生懸命に取り組む反面、難易度が高いと感じたものに関しては粘り強く取り組む姿勢がやや乏しい。普段から担任の話に関心をもつ生徒も多いので、夏休み明けからモンゴルでの経験を積極的に提供し、わくわく感をもたせるよう心掛けた。今回行う話し合いの授業は、3 年間通して国語科の中での実践は少なかったため、何度か練習を行い、「建設的な話し合いの作法」を身に付けたうえで授業を行うことにした。

また、本生徒たちは、国際理解教育の経験はほぼないものの、ALT(アメリカ圏)との交流を活発に行っていることから、海外への関心は比較的高い。今回は開発途上国(モンゴル)について学ぶ初めての機会なので、日本やアメリカなどの先進国との違いも感じられる内容を意識した。夏休み明けに学年通信でモンゴルでの経験談を伝えた際には、意欲的に様々な質問をする子もおり、興味の高さを感じた。

**【指導観】**

指導の工夫にあたって、以下二点を留意したい。

一つ目は、モンゴルの学習を行う際、結果的に日本との比較になると想定されるが、「日本の方が優れていて素晴らしい」という思考に留めない工夫をすることだ。インフラだけに目を向けると日本の快適さが際立つのは仕方がないことではあるが、モンゴルの人々がもつ言語習得や海外就職を意識した学習意欲等の向上心や、他人をいい意味で気にし過ぎない大らかさが見えるよう、また感じられるように、資料提供の仕方を工夫したい。日本の「当たり前」が世界共通ではないことも気付かせたい。

二つ目は、モンゴルの現地の人々になる際、自分事として深く捉えられるよう、登場人物の情報提供を多面的多角的に行うことだ。本研修で得た資料を提供するだけでなく、自ら HP 等で調べる工夫をさせたい。一面的に状況を見ると、人物理解が浅くなってしまい、政府への提案内容も薄いものになると想定される。そのため、その人物の過去・現在・未来の立場・思考について中学生が理解できるよう意識したい。

5. 単元計画 (全4時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1 (国語)	多様な考えを認め、互いの考えを生かしながら話し合う「建設的な話し合いの作法」を身に付ける。	合意形成に向けて話し合おう 課題：もうすぐ卒業する私たちが、学校のためにできること ・教科書の例を用いて合意形成の難しさを体感する。	・練習用課題 ・付箋 ・ループリック ・ワークシート
2 学習の時間 (総合的な)	モンゴルについて、多角的多面的に理解を深める。	・モンゴル紹介 ・人物決定(6名) (MON-SHEPの農家さん、新モンゴル学園の学生、トルゴイト地区のNGOの方、日本モンゴル教育病院のお医者さん、玉ねぎ農家さん、遊牧民)	・ワークシート ・スライド
3 (国語)	モンゴルの人々の暮らしや置かれた立場に触れ、社会課題が解決する手立てを考える。	課題：モンゴル政府に要望したいこと(要望書の作成)  ・各自人物になりきって、要望書作成のための話し合いを行う。 ※同じ人物グループで何を要望するか話し合い	
4 の時間 (総合的な学習) 本時	それぞれの要望のメリット・デメリットを考慮したうえで、社会課題を解決する困難さを意識することができる。	課題：モンゴル政府になり、どの要望を1つ選択するか考える。  ・モンゴル政府を6つ作り、どの要望を受け入れるかの話し合いを行う。 ※3時間目とは別のグループで話し合い	

6. 本時の展開 (4/4)			
本時のねらい： モンゴルの社会課題解決のため、政府の立場に立って実現可能な要望を選択し、その理由を説明する。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入① (7分)	●前時の確認 「前回の授業では、モンゴルの現地の人6名になりきり、各グループで要望を1つにまとめました。」 「要望を発表する前に、内容をもう一度確認してもらおうと思います。5分間打ち合わせ時間を取りますが、今何か質問はありますか。」	・既習事項の確認	・スライド(要望書)
導入② (8分)	●6つのモンゴル政府に分かれる 「では、先に荷物を持って政府のグループに分かれます。事前に伝えた1～6のグループへ移動してください。」  ●移動完了後… 「では、現地の人たちの要望を発表してもらいます。」		

	<p>〈要望例〉</p> <p>A : MON - SHEP 農家 ホランさん…生産する野菜の種類を増やすために環境整備</p> <p>B : 新モンゴル小中高一貫校高校生 ナランさん…都市部の交通渋滞の解消</p> <p>C : トルゴイト地区開発センターNGO ゲレルさん…地区のインフラ整備</p> <p>D : モンゴル日本教育病院 ガナさん…保険料改定の制度を動かすこと</p> <p>E : 玉ねぎ農家 バスカさん…人手不足解消のため ICT を使った農業用ドローンの導入</p> <p>F : 遊牧民 15 歳少年 チヌルさん…移動手段を増やし、道路整備等のインフラ充実</p>	
	<p>「ありがとうございました。」 「では、モンゴル政府 1～6 になり、A～F のどの要望が実現可能かを、メリット・デメリットを考えて、1つ選択してもらいます。」</p>	<p>・役割の確認</p> <p>Pros・Cons 分析</p>
	<p><b>【課題】</b> モンゴルの社会課題解決のため、政府の立場に立って実現可能な要望を選択し、その理由を説明する。</p>	
<p>展開① ( 5分)</p>	<p>「役割を 5 人(4 人)で分担して、モンゴル政府として話し合いを行ってもらいます。」 「まずは、役割分担をしてください。」</p>	<p>・役割を意識して話し合いを進めているか。</p>
	<p>〈役割〉</p> <p>①発表者 ②司会者 ③メリット&amp;デメリット記入者 ④発表用紙記入者 (⑤タイムキーパー)</p>	
<p>展開② ( 17分)</p>	<p>●話し合い活動開始</p> <p>●モンゴル政府として、どの要望を選択したかを発表</p>	
<p>展開③ ( 10分)</p>	<p>〈選択例とその理由〉</p> <p>1 : C…貧困層のインフラ整備を行うことで貧富の差を少なくしたいから。上下水道の設置に多額の費用はかかるが、長期的に考えると、国全体が発展するから。</p> <p>2 : D…保険料改定を行うことで、より国民全体が病院に行きやすくなり、結果として病気等にかからず生活が豊かになると考えたから。国民の税金負担等は増えるだろうが、健康で寿命も長くなるから。</p> <p>3 : E…未来の機械化に合っているから。地方の人手不足に役立てると思うが、ドローンの初期投資やメンテナンス費用はかかる。</p> <p>4 : C…インフラ整備を行うことで、国全体の衛生面が向上し、発展が期待できるから。費用がかかることがデメリットではあるが、経済面・観光業の発展でカバーできるはず。</p> <p>5 : A…地産地消を実現することで、国民の健康面のサポートもできると思ったから。機械の導入には資金が必要だが、野菜の収穫量が増えることによって国民の健康を守ることができるから。</p> <p>6 : B…渋滞を解消することによって国民全体の時間的余裕ができ、何かを発明することができるかもしれないから。高速道路や地下鉄を作るにはお金がかかるが、国民の要望が強いなら、税金をあげても許されると思ったから。</p>	

まとめ (3分)	<p>●モンゴルのみならず、日本においても様々な社会課題があることを確認 (メリット・デメリットを考えた時に解決は一筋縄ではいかないことに気付く)</p> <p>●ワークシートに話し合いを通して、わかったことや気付いたことを記入</p>		ワークシート
<p><b>7.評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</b>  <small>(主体的に学習に取り組む態度)</small></p> <p>①: モンゴルの社会課題を解決するために、現地の人に対する当事者意識をもったり、モンゴル政府の立場に立ったりして、理由を含めて考えることができたか。(振り返りワークシート)</p> <p>②: モンゴルの社会課題を解決するために、現地の人に対する当事者意識をもったり、モンゴル政府の立場に立ったりして、考えることができたか。(振り返りワークシート)</p>			

### 【参考資料】

#### 資料および外部との連携

- ・地球の歩き方 D14 モンゴル 2024～2025 年版 株式会社地球の歩き方 2024年 p 144～151

### 【自己評価】

苦勞した点	<p>国語で授業実践を行いたかったため、国際理解教育と結びつけるまでが大変だった。中学3年生の担当であり、生徒の感覚として高校受験に関係のないことはしたくなかったため、教科書の範囲で単元を見つけることを心がけた。話し合いの授業はいつも評価が難しいものの、モンゴルという斬新なテーマを扱うことによって生徒の意欲は増したように感じた。</p>
改善点	<p>準備期間約1か月と短かったため、事前の仕込みがやや足りなかった。1学期中に話し合いの授業を1時間でも行っていたら、もう少し生徒が向き合いやすい環境だったのではないかと思う。</p>
成果が出た点	<p>生徒の振り返りを読むと、モンゴルという国を一面的ではなく多角的多面的に見て理解しようという気持ちで授業に取り組んだ子が多いことが分かった。これは、昨年度の社会科の授業で繰り返し指導を行った成果であると考えられる。国語科としては、話し合いをするときに常に肯定的に相手の意見を聞く良さを感じた子が多かった。その後の学校生活においても、ポジティブな影響があった。</p>
学びの軌跡 <small>(児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルは最初開発途上国に見えなかったけど、細かい部分が追い付いていないことに気づき、大きな進歩(発展)の影の大きさと影に隠された穴があることを知った。</li> <li>・何かを決める時には、まずそのこと(今回だとモンゴルのこと)について様々な視点から理解し、知ろうとしないといけないと</li> </ul>

	<p>ということが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を知るだけではなく、「どうしたらより良くなるか」を考 えることが国の理解を深める鍵になると感じた。</li> <li>・モンゴルのことを主体的に考えることによって、日本の課題も 見えたように感じた。</li> </ul>
授業者による自由記述	<p>現地の人の要望を選択する活動で、どのような意見が出てくる か見通しが持てなかったが、最初に授業をした学級でドローンや AI など次世代に繋がる様々なアイデアが出た。中学生の頭の柔 らかさを実感した。また、政府として案を一つに決める際には、 生徒のプレゼン力が人の心を動かすことを目の当たりにし、勉強 になった。</p>
次年度以降の取組予定	<p>話し合いの授業において、自分以外の誰かの立場になって考え る練習を、引き続き行いたい。</p>

【ルーブリック】

合意形成に向けて話し合おう 目標と振り返り 3年 組 番

目標	1. 複数の発言の共通点を見いだすなど、具体的な事例を抽象化して整理する。 2. 多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。 3. 自分の目標（1つ選択し、○をつける。） A 肯定的な受け答えを意識する。 B 主体的に国際社会について知る。 C 国際社会の一員として発展途上国への理解を深める。 D その他（ ）
----	---

1 ルーブリック

主体的に学習に取り組む態度…本ワークシートで評価する。

レベル	内容	目標点
0	以下のレベルの説明に記されたいずれの基準にも達していない。	/6
1～2	自ら学習の目標をもち、振り返ろうとしている。	
3～4	自ら学習の目標をもち、その過程を評価して改善しようとしている。	
5～6	自ら学習の目標をもち、その過程を評価して目標を立てようとしている。	

2 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日（ ）の振り返り ←できた できなかった→


1. 複数の発言の共通点を見いだすなど、具体的な事例を抽象化して整理する。	4・3・2・1
2. 多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。	4・3・2・1
3. 自分の目標（ A・B・C・D ※選んだものに○をつける）	4・3・2・1

3 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日（ ）の振り返り ←できた できなかった→

1. 複数の発言の共通点を見いだすなど、具体的な事例を抽象化して整理する。	4・3・2・1
2. 多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。	4・3・2・1
3. 自分の目標（ A・B・C・D ※選んだものに○をつける）	4・3・2・1


指導者による評価 /6

[前時スライド] — 本時でも振り返りに使用 —



# MONGOLIA

3年国語 合意形成に向けて話し合おう




## MONGOLIA?

# どんな場所ですか? イメージしてみよう!

### WHY MONGOLIA?

- モンゴルを題材にする意味…?
- モンゴルの社会課題の検討を踏まえ、話し合いや合意形成の難しさを知るため。
- 将来、確実に考えなければならぬ「日本の社会課題」。そのケーススタディをして取り扱う。
- 日本とモンゴル、条件は違えど、日本人の先輩方が乗り越えてきた課題なので元町中3年生ならば頭フル回転したら挑戦できる!



平均標高は**1,580m**。  
→日本と比べるとかなり高地  
・首都ウランバートルの標高**1,350m**。  
・成田空港→チンギスハーン国際空港まで**4,131,000km**。  
飛行機でおよそ5時間半。

### WHAT KIND OF PLACE IS MONGOLIA?

- 首都: ウランバートル ※全人口の約半分が在住
- 言語: モンゴル (国家公用語) ・カザフ語
- 民族: モンゴル人 (全体の95%) 及びカザフ人等
- 面積: 156万4100平方キロメートル (日本の約4倍)
- 人口: 350.5万人 (2023年、モンゴル国家統計局)
- 通貨: トウグルグ ※1トウグルグ=0.042円 (2024年平均)

### WHAT KIND OF PLACE IS MONGOLIA?

- 主要産業: 鉱業・牧畜業・流通業・軽工業
- 国土: 80%が草原。南部はゴビ砂漠、北部はタイガとよばれる針葉樹林帯が広がっている。
- 気候: 年間を通して乾燥。夏は過ごしやすいが時に30℃を超える。念のため、雨具や防寒具を持っておいの方がよい。

## 宿泊先ホテルルームツアー動画



ウランバートル ホテルアメニティ



ウランバートル ホテル周辺





地方都市 観光地 2

地方都市 観光地 1

### [前時ワークシート]

2025年度3学年 合意形成に向けて話し合おう

3年 組 番 名前:


▶ モンゴルの現地の人々の人物像

▶ モンゴルのイメージは?

MEMO

▶ モンゴルの写真を見ての質問事項 (5つ以上)

▶ モンゴルの写真を見ての質問事項 (5つ以上)



【本時ワークシート】

展開①

課題: モンゴル政府に要望したいこと

**提案する意義 (大)**

**提案する意義 (小)**

2025 年度 3 年国語 合意形成に向けて話し合おう【モンゴル編】

**現地の人の要望書**

メンバー:

私の要望は、\_\_\_\_\_です。

理由は…

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_

私は、\_\_\_\_\_

暮らしたいです。

よろしくお願いたします。

<役割分担>  
①発表者 ②司会 ③付箋整理 ④スライド用紙記入 ⑤要望書記入・タイマー

展開②③

2025 年度 3 年国語 合意形成に向けて話し合おう【モンゴル編】

**モンゴル政府の発表**

メンバー:

モンゴル政府 1・2・3・4・5・6 は、  
要望書 A・B・C・D・E・F を採用します！

理由は…

考えられるメリット

デメリット

(デメリットもある…) BUT しかし、

私たちは \_\_\_\_\_ 案を進めていけるように努力します。

<役割分担>  
①発表者 ②司会 ③メリット・デメリット記入 ④用紙記入 ※⑤タイマー

【進行スライド】



A: MON-SHEP 農家のホランさん



- MON-SHEP 市場志向型農場振興プロジェクト【ねらい】
  - ・市場を把握してから野菜を作ろう！
  - ・野菜の自給率を上げよう！
- 【内容】
- ・規模は小さいが様々な野菜を生産。
  - ・近年、葉物が中心。
  - ・元々はにんじん・じゃがいも・かぶ・玉ねぎ・にんにくの生産が多い。

ホランさんの紹介

- ・20年前から野菜作りを始め、10年前から営業用野菜の生産を開始。
- ・現在も小さなスーパーに出荷している。
- ・以前のモンゴルは中国の輸入品ばかりだった。
- ・MON-SHEPに入ってから野菜の市場をよく調べて、計画生産、価格設定できるようにすること。消費者のニーズを理解することが必要だと分かった。
- ・1回目の販売ではキュウリを売ったが安くなくなってしまい失敗。2回目は試食してもらい適正価格で売ることができた。
- ・収入とコストの管理が身に付いた。
- ・今後もモンゴルの子どもたちに無農薬や国産野菜を食べてもらいたい。

ホランさんの紹介+α

- ・この農園は、姉妹（それぞれ家庭有）が中心となって経営。
- ・夫は農業とは全く別の仕事をしている。
- ・軌道に乗る前までは、夫は反対気味だったが、最近は力仕事を中心に積極的に手伝いをしてくれる。
- ・野菜作りに従事して以降、健康診断では肥満以外の診断はなし。
- ・農業を仕事にしてから身に付いた力は、**努力・自然と調和すること・忍耐力**だと思う。
- ・近年、じゃがいもの生産は増えており、他国へ輸出している。
- ・農業に新親参入する際、土地、水（地下水をひくこと）・家畜の糞が必要。土地は国が貸してくれる（1回の契約で30年）。



周辺の様子  
家の中  
動画

B: 新モンゴル小中高一貫校 高校生のナランさん



- 新モンゴル小中高一貫校
- 2000年に日本型教育をモンゴルにし、「世界に通用するモンゴル人の育成」をモットーに設立。2008年に12年制小中高一貫校へ。「夢」をもつことを大切にしている。
- 【日本の学校との違い】
- ・掃除、給食当番等はなし。
- ・部活動を取り入れ、一人一つ入部。



## 授業の様子 動画



### ナランさんから聞いたこと

- 10年間札幌に在住。東区の中学校に中3の2学期まで通った。
- 将来、日本の大学に進学しようと考えている。日本の方が好き。
- エンジンニア志望。
- 両国を過ごして思うことは、日本人は他人を気にするけど、モンゴルの人はあまりその点を考えていないようなので、話し合いのときに意見が活発に出る。
- モンゴル人はルールを守らない。生徒がたばこを吸っているけど先生が強く指導することははない。交通ルールも守らない。
- **日本は村社会、モンゴルは遊牧民**で自分たちのことだけ考えればいい社会だったから、このような雰囲気になっているのではと推測する。

### ナランさんから聞いたこと②

- この学費は日本円で年間40万(月額約5万)、モンゴルの公立学校の先生の給料が月額10万だから、この学園の**学費は高い**。
- 公立学校だと、2人座席のところは3人で座って授業を受ける。
- モンゴルでは家庭科や保健のような科目がない。**健康=何かを摂取することで、バランスを考えようという観点がない**。
- ウランバートル市は交通渋滞がすごいので、大気汚染が社会問題。
- 政治家が選挙の時に「地下鉄を作ります!渋滞を解消します!」と公約を述べるけど、**当選したら何もしない**。
- 日本語で何かを調べると、色々な検索結果が出てくる。モンゴル語ではあまり詳しいことを知ることができない。

### C:トルゴイト地区開発センター-NGOゲレルさん

- トルゴイト地区開発センター  
地方からウランバートル市内に出て来た人たちの支援のため、**2005年**設立。  
政府が「ウランバートル市(都会)に出ておいで」と言いつつ、衣食住(インフラ整備含む)は整っておらず、無秩序に街が広がった結果、水がない、学校がない、病院がない...等の課題が...。  
カナダ大使館の支援を受けて「みんなの集いの場」としてスタート!  
**ゲレルさんは設立者の一人。**



## 子どもたちの様子 (遊び&ダンス) 動画




### ゲレルさんから聞いたこと

- 2005年当時、子どもの人数に対し、学校の数が足りず、午前・午後・夕方方の3回に分けてそれぞれが登校していた。  
※現在は4校立てられたので解消済み!
- 地区センターは非公式の教育の場としての位置付けもあった。
- この地区で障がい児教育は出来ていないので、地区センターがサポーターに当たっている。
- 生ごみはコンポストをして地区センター内の野菜作りに生かしている。
- ここで生まれた子どもたちは、ここでの生活しか知らないのので、**サマーキャンプ**として「**遊牧民の生活1泊2日**」を実施。
- **伝統舞踊**に関しても、この地区の高齢者がボランティアとして指導。

### 地区開発センターで印象に残ったこと

- **水は地下水のみ。上下水道がない。**
- 汲み上げた水が出る場所は、敷地内に1か所。
- 子どもたちは、たらいで水浴び(=お風呂)。
- 大人は週2程度、公衆浴場(簡易シャワー)へ。
- スマホを所持している子どもたち。  
→ TikTok、インスタ、YouTube等がk-pop情報を取得。ダンスでできる♪
- **流暢な英語を話せる小学生**が数名。
- モンゴルが民主制になった時に、日本が一番最初に支援してくれた。
- トルゴイト地区開発センターは**正しい開発モデル**になりたい!

### D: モンゴル日本教育病院 ガナさん



- 2019年に開院。
- …日本が無償資金で支援
- 2019→2024で患者さんが10倍
- …年間17万人利用。  
既にキャパオーバー状態。
- 医療サービスの範囲が広く、他病院に比べて行っているシステムを広げる活動をしている。
- JICA海外協力隊派遣が毎年4名。

### ガナさんから聞いたこと

- 九州大、北大の先生方が指導をしに来るときがある。
- **日本の病院へ留学経験**がある。(大阪・名古屋) 感じがいいと思う。
- モンゴルでは、お店の店員さんがモノを売る気がなさ過ぎて、喧嘩したことがある。**CU(韓国系コンビニ・2018年〜)が参入してからは、お客様に対するサービスという意識が少し根付いてきた**ように感じる。
- 現在、モンゴルでは保険料改革が動き出そうとしていて、日本という「厚生労働大臣」が変わったことにより、一時ストップ。モンゴルではよくあること。
- 病院もマネジメントカが大切だと思う。

### ガナさんから聞いたこと+α

- モンゴルの人は、お腹がポーンとした人が多い。(国の傾向)
- 結果、糖尿病、血圧が高い、肝臓がんがものすごく多い。
- 運動をあまりしない。お肉をよく食べる。
- 病気が治って退院しても、自己管理ができてきない人が多い。
- 一次医療(地域住民が最初に受診する身近な医療のことで、かかりつけ医による一般的な疾病の治療や健康診断、予防医療などが中心)の受診率が低く、質もあまりよくない。
- 国民全体的に、**医療に関する知識が低い**。
- **〇〇を食べたらよくなる、〇〇をするとよい、**という感じで、「**パラスよくく**」という**観点**が**多い**。

### E: 玉ねぎ農家 バスカさん



- 玉ねぎ農家 (草の根技術協力事業)
- 北海道滝川市が支援・サポート
- バスカさんと高齢男性の2名で、畑を耕している。
- 農業は天候に左右されるため、収入確保の保証がない。今年は8月の2回しか雨が降っていない。
- 日本と違い、インフラ整備が整っておらず、田舎の人口が少ない。



### バスカさんの自己紹介

- ウランバートル市出身。38歳
- 玉ねぎ農家以前は、ダイナマイトに関する仕事をしていた。
- 転職理由は、姉にこの仕事を紹介され、**ウランバートル市で働くのも嫌になった(交通渋滞・大気汚染等)**。
- アメリカに10年(25~35歳くらい)まで生活し、そこで「どういこうとが幸せか?」を勉強してきた。出世する方法や考え方も学び、私生活は諦めていない。
- 農家になってから乗り越えられない程の苦労はしていない。
- 夏はこちらで農業をしながら過ごし、冬はウランバートル市内にある家で生活している(2拠点生活)。

### バスカさんの自己紹介+α

- あと2～3年は農家をする予定。それ以降は分らない。
- モンゴルは**日本のように20～30年後を考えると**はないから。
- 農業は天気に左右されるため、収入の確保の保証がない。
- 年々降水量も減っており、2025年は8月の2回しか雨が降っていない。
- 日本と違い、インフラ整備も整っていないため、特に田舎の人口は少ない。
- 私のように都会での生活に慣れて、田舎に移住する人もいる。
- JICAの草の根技術協力事業(滝川)により、村に農機具が譲渡され玉ねぎ農家たちが農繁期に活用している。

### F: 遊牧民・15歳の少年チヌルさん



- トウブ県ジャルガランド群
- 馬・羊等飼育をしている地区。
- ウランバートル市から約3時間。
- 馬乳酒(カルピスに強い酸味を加えた味のお酒)が有名。  
…飲むとお腹を壊す人も…。
- 8月時点15℃程度で気温も低く、日中でも春のアウターは必須。
- 風がものすごく強い。



### チヌルさんの紹介

- ゲルに住んでいる。**
- 自転車と馬だったら馬の方が簡単に乗れる。
- 羊のライフサイクルを考えて生きている。
- かくれんぼが好き。
- モンゴルは内陸で海がないけど、**海を見たい。**
- ゲルのしきたりを大事にし、自然に合わせる精神で生活している。
- 夏は乳酸品をたくさん作る。乾燥チーズのアーロール、滋養としての馬乳酒等生乳で飲まずに、加工をする。
- 子どもたちは長期休みのため、**家の手伝いとして馬の世話**をしている。

## 馬の搾乳の様子 動画

【特別収録】元中戦隊 チョコレンジャー

元町のほっとステーション 3の4



元中戦隊  
ショコレンジャー

札幌市立元町中学校  
3年4組 学級通信 No.20  
令和7年8月26日(火)  
担任：山田翔子

♪モンゴル体験記♪

宣言通り、夏休み8月2日～10日までモンゴルに行ってきました。元々「海外大好き♪」ではない私が体験したモンゴル。日本と似ているところもありながら、「ここは韓国か?」というくらいハングルがあふれていたたり、現地で使われる文字はロシアと同じキリル文字だったり…。一言で表すならば、「勢いのある国」でした。まずは、モンゴルで感じたことを紹介します。

1、日本の当たり前は、世界の当たり前ではない!

毎日「日本の当たり前は世界の当たり前ではない。」と感じていました。まず、水道水は絶対に飲めません。車間距離はほぼ0!モンゴルでお茶と言えば、「塩入りのミルクティ」を指すので、ホテルの部屋の牛井であって、ミルクティと一緒に飲みます。ホテルの部屋のシャワーへへ壊れていてスタッフの方に伝えても、1週間直りません。若年層が多く(平均寿命60歳程度)、杖をついて歩く人がほぼいません。代わりに、街には仕事をバリバリしているような(やや気の強そうな)女性が多く、颯爽と歩く姿が目立ちます。多言語習得(日本語・韓国語・英語等)への意欲が物凄く高く、世界各国へ就労しようとしている人々。良くも悪くも日本にはない「勢い」を感じる毎日でした。

2、日本人の当たり前は、世界に誇れるものかもしれない!

モンゴルでは「日本の経営」を学ぶビジネスマンがとても多いそうです。日本の経営の中でも最も有名なのが「5S」。これは職場環境を改善するための活動で、「整理」「整頓」「清掃」「清掃」「清深」「しつけ」の5つの要素を指します。それぞれの頭文字が「S」で始まることから、「5S」と呼ばれ、英語においても「Sort」「Set」「Shine」「Standardize」「Sustain」と「S」で始まる5つの単語で表されています。

【5Sの内容】

- ・整理 (せいり, Seiri): 不要なものを排除し、必要なものを残すこと。
- ・整頓 (せいとん, Seiton): 必要なものを決められた場所に置き、誰でもすぐに取り出せるようにすること。
- ・清掃 (せいそう, Seisou): 職場を常に清潔に保ち、点検も行うこと。
- ・清深 (せいけつ, Seiketsu): 整理・整頓・清掃を維持し、常にきれいな状態を保つこと。
- ・しつけ (しつけ, Shitsuke): 決められたルールを守り、習慣化すること。

…これって、日本では学校教育の中で自然と身に付けていくものでは?と思ってしまうかもしれません。日本の学校で取り組んでいる教育課程以外の学びは、どうやら世界に通用するようです。



元町のほっとステーション 3の4



元中戦隊  
ショコレンジャー

札幌市立元町中学校  
3年4組 学級通信 No.21  
令和7年8月27日(水)  
担任：山田翔子

モンゴルでの意外な発見!

1、国内に Starbucks とマクドナルドがない!

KFC(ケンタッキーマウ)と Pizza hut、BUGER KING、YOSHINOYA(吉野家)はチェーン店として様々ところにあります。韓国系コンビニCUとGS25も至る所に点在。しかし、日系のセブン、ローソンは全く進出していません。物流の関係で、日本から商品を運ぶのはとても大変らしく、イオンも進出計画を立てた後、採算が取れないということで断念したそうです。



2、公共交通機関はバスのみ…

JRも地下鉄もなければ、タクシーも見かけませんでした。モノレールも電もありません。その分、日本車がたかさん走っています!特にトヨタのプリウス(の中古車らしい)。道路は日本と逆の右車線ですが、運転席は左右半々くらい。チャイルドシートはないので、子どもが窓から顔を出しています。車間距離はZEROで渋滞が激しいので、みんなスマホを片手に運転席に座っています…。

3、TWICE(かわいい)より BLACKPINK(カッコいい)派が多いよう

街中で颯爽と歩く女性には韓国系ファッションが多く、どちらかというとカッコいい雰囲気をまとっています。モンゴル日本人材開発センター(習い事)でボランティアとして学生と話しをする事になり、思いついて「TWICEとBLACKPINKはどちらが好き?」と日本語で聞いてみました。結果、BLACKPINK派が多く、メンバーは誰が好きか?と聞かれる状態。やっぱりカッコいい感じが好きなのね、モンゴルは…。



4、低年齢でピアスをしている子、多数!

同じくモンゴル日本人材開発センターでの発見です。小学校5年生以上の子でピアスをしている子が多いので、宗教的なこともあるのかと思いつつ穴を開けたの?と聞くと、「3歳」「13歳」…と家外バラバラ。モンゴル人の通訳さん曰く、宗教的なことで女の子は低年齢でピアスを開けるようです。「日本は学生の時にピアスの穴を開けていたら、学校で指導されるんだよ～」と伝えると、とても驚いていました。

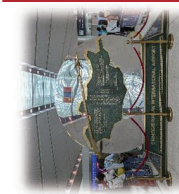
5、家畜は丸ごと食べてます!

家畜、特に羊は丸ごと食べます。捨てることは一つもありません。料理名は忘れましたが、お店に「羊の頭」をそのまま焼いたものがあります。私は勇気がなくて注文しませんでした。一緒に行った人たちが一度挑戦していました。日本人は見ただけでほほえみます…。通訳さん曰く、羊は小さい時から見るから大丈夫だけど、日本で見ただけで、日本で見ただけで、その目の方が怖い、ということ。なるほど、そういう見方もあるか。




6、民主化にすればいいけどもでもないようだが…

モンゴルは1924年に世界でロシアに次ぐ二番目の社会主義国になった後、1990年に民主化へと舵を切りました。つまり、本格的に民主化になってまだ30年程度しか経っていません。私は今まで民主化になれば何となく国民みんな HAPPYだかと思ってきました。しかし事情はやや違ったようで、民主主義について深く理解できていない若者たちが中心となって国造りをした結果、あらゆる分野で混乱が生じたようです。社会主義時にされていたごみ分別は、現在も何もなされていません。衣料品・農作物の作り方を知らない者はみんな「古い」と左遷されてしまったので、一時期ほぼ全て輸入(主に中国)に頼らざるを得なくなりました…など、様々な弊害があったようです。今は、それぞれの分野における社会課題を乗り越えるために、一つ一つ前向きに取り組んでいるようです。



元町のほっとステーション 3の4  
元中研修



札幌市立元町中学校  
3年4組 学級通信 No.26  
令和7年10月9日(木)  
担任：山田翔子

## 合意形成に向けて話し合おう【モンゴル編】


今回の学習課題は①国際社会の一員として発展途上国への理解を深める。(国際理解教育)②多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。(国語)でした。振り返りの中で、それぞれ感じたこと、考えたことを書いていたのですが、素敵な気持ちをいっしょに紹介しています。今後、みんなが社会に出た時に必要となる力だと思えます！

- ・モンゴルは意外に都市化が進んでいないことが、(学習を進めていく)設備や細かい点の違いが、いていないことに気が付いた。大きな進歩・発展の影の大きさとそれに追いついていない影に隠れた穴に気が付いた。
- ・何も無い草原が広がっている国だと思っていたが、思いがけず都会だし日本や韓国の物も多く売っていた。政府への提案を考えると、いいところだけでなく課題も知ることができ、国への理解が深まった。
- ・日本との違いを明確にする上で、モンゴルは発展途上国なのだと感じた、日本にもモンゴルに比べて足りない点があるのではないかと感じた。
- ・日本以外の国の現状を知ることができた。現状を知るだけではなく、「どうしたら良くなるか?」を考えると、発展途上国への理解を深める鍵になると感じた。
- ・モンゴルのことを理解するのはあまり意味がないかと思っていたが、主体的にやってみると、日本人として今まで見えなかったことが見えてきた。
- ・モンゴルの人の立場になって考えると、気持ちや想像できて物事の重要性も分かるけれど、政府の立場になると「国」が基準になって、重要性がなくなってしまうところが難しいと感じた。
- ・発展していきなそうだと感じたモンゴルは、日本と変わらなところが見られマイナスイメージがなくなった。
- ・日本については聞く、調べるのが大切なのだと感じた。
- ・日本の普通は普通じゃないことを学んだ。文化や制度の違いも知れた(例えばルールに対する意識)。色々な解決策が出る中で、順番を間違えたら難しいことになることに気が付き、優先順位を考えることも大切だと思った。
- ・(発展途上国である)モンゴルの社会問題が徐々に解決に進んでいるが、多くは他国や日本の支援があることを知った。

- ・話し合いをすすめていくと、色んな視点の意見があった「それ無理そうじゃない?」と言わずに、「これとこれを組み合わせたらいい感じになるよね?」とポジティブに考えながら話し合った。
- ・意見を出しやすい環境をつくることも話し合いで大切だと思った。多面的多角的に見ることで、様々な案が出るのが分かった。何かを決めるときには、その内容について知らなければならぬと知った。
- ・物事を決める時には、それぞれのメリット・デメリットを挙げて、どの部分を優先するかを考えると、納得する意見や考えに辿り着くことに気が付いた。
- ・話し合いをすすめる中で、相手の意見は理由などを含めて最後までしっかりと聞くこと、自分の意見も理由をつけて伝えることが大切だと思った。人の意見を否定することは簡単だけれど、肯定するのは難しいと感じた。
- ・自分が想像していたイメージで決めるとは、そのことについて調べたり、色んな立場から物事を捉えたりすることが大切だと思った。色んな役職の人が全員にまんべんなく考えを聞くことが重要だと感じた。
- ・「イヤネ」を言うことを大切にしたら、話し合いの雰囲気がよくなら、案が出しやすくなった。色んな人の発表を聞いて、否定から入るのではなく「そんな考えもあるのだ。確かにその案良いかも。」などお互いに認め合いながら発表を聞いた。

他国を知ると日本のことをもっと知りたくなります。きっとそれが日本を変えていく活力になるのではないかと感じています！話し合いも肯定的に行うことで人間関係も円滑になると信じています！

**みんな、たくさんの協力ありがとうございました!!!**



元町のほっとステーション 3の4  
元中研修



札幌市立元町中学校  
3年4組 学級通信 No.22  
令和7年8月28日(木)★  
担任：山田翔子

## 教師海外研修を終えて…

今回私は、JICA 北海道が企画・運営する「教師海外研修—モンゴル編」に参加しました。「北川先生がカナダ留学したことだし、私もどこか海外に行ってみようかなあ」という動機で応募した研修でしたが、得るものがたくさんありました。「海外大好き!」ではない私も、それなりに適応できた…はです。モンゴルは地図帳で調べても説明が少なく、「砂漠…?」くらいイメージしていましたが、そこで生活する人々と接する中で感じることも多く、日本を出てみるこの大切さを実感しました。皆さんも機会があれば、もしくは機会を作って、若さと自由と勢いがあるうちに海外、特に発展途上国に行ってみてほしいです。

日本に比べると気が付かない、日本や日本人の良さを発見できます。あと、気持ちが大らかになります。なぜなら、発展途上国には「日本にはあるけどここにはないもの」が多く、何事も細かく丁寧にできないので、自然と心も所作も大らかになります。海外に行くことが外国人なので、他人からの優しさも身に沁みます。私も札幌で迷っている外国人に出会ったから、声をかけてみよう!親切にしたい!という気持ちになりました。

モンゴルではつたつたない英語と韓国語を使って会話を頑張りました。一人でファーストフードに入ってから、利用者が自分で操作して情報取得やサービス利用ができる自立型の情報端末(注文・決済まで)完了。時間が足りず、インターネットからデバイスアウトに変更したくて、片言英語を店員さんに話したら案内してもらいました。

一緒に研修に参加した高校の先生が馬乳酒(馬の乳を乳酸菌と酵母で発酵させて作る、モンゴルを中心とした中央アジアの遊牧民の伝統的な飲み物)を購入したくて、スーパーでウロウロしましたが全く見つからず…。もう現地の方に聞いてみよう!と決め、チラチラこちらを見ていた主婦に話しかけたら、日本語バリエーションの方でした。私たちが「あーだ、こーだ」話していた言葉はほぼ聞こえていたそう…。日本に10年間くらい住んでいて、今は日本の商品を輸入してモンゴルで売っているお店を営んでいるそうです。「日本語全然使っていないから上手じゃなくって～」と言っています。私が、私たちがちやちや聞き取れず、隣に座っていたヨーロッパ系外国人と機内食のウランバートル→仁川国際空港の飛行機で、隣に座っていたヨーロッパ系外国人と機内食について目を見て話したら、アランの高校生でした。家族で2か月間各国をバカンスした帰りで、私も実際に見たことがない熊本の写真を見せてもらいました。

また、同行されたJICA北海道の方は海外協力隊に参加経験があり、2年間過ごしたインドやスリランカの話も聞きました。正直「自分には厳しい…」という内容ばかりでしたが、だからこそ今の日本の生活を大百聞は一見に如かず。いつか海外へ行って、自分だけの新しい世界を見つけてみてください!



馬乳酒、カルピスみたいだけど…



# わたしの一枚



## 異国の地でのBURGERKING

### 写真を撮った場所：ウランバートル市内

一人で夜のウランバートル市内を散策した時に見つけたBURGERKING!普段はあまり食べないのですが、無性に食べたくなって意を決して購入しに行きました笑。一人だったので、かなり緊張しました。キオスクの英語を読みながらメニューを把握…。海外では氷を入れてもらわない方がいいって聞いたな。でも英語読めない、分からない(笑)。…きっとNOを選べば大丈夫!なんて考えながら無事に購入完了。店員さんに笑顔で話しかけられながら商品を受け取りました。こんな小さな経験ですが、一回り人間が大きくなったように感じました!

氏名: 山田 翔子

学校名: 札幌市立元町中学校